



2023年度

(令和5年度)

## 事業報告書

### 第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

### 第2 事業の概要

- 1 2023年度 事業方針
- 2 2023年度 法人 事業報告
- 3 2023年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2023年度 小学校 事業報告
- 5 2023年度 こども園幼稚園 事業報告

### 第3 財務の概要

- 1 財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

## 第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

### 1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としている。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、2017年8月に生誕200周年を迎えた。聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立した。日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備し、1954年に学校法人として認可されて以来、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

### 2 学院のモットー、教育理念

#### (1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

#### (2) 教育理念

LIFE—生き活きとエネルギーに生きる人

TRUTH—いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人

FREEDOM—周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人

GOODNESS—一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人

ONENESS—誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

### 3 学院の沿革と概要

#### (1) 法人設立認可年月日

1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年（昭和62年）4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

#### (2) 学校園設置認可年月日

1954年（昭和29年）2月9日幼稚園設置認可

1954年（昭和29年）2月9日小学校設置認可

1959年（昭和34年）11月6日中学校設置認可

1962年（昭和37年）9月29日高等学校設置認可

1967年（昭和42年）1月23日短期大学設置認可

2005年（平成17年）7月29日短期大学閉学認可

2015年（平成27年）3月31日幼稚園廃止認可

2015年（平成27年）4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園  
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校  
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校  
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）  
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園  
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更  
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更  
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更  
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2023 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分	収容定員数 (A)	現員数 (B)	収容率 (B/A)
こども園アサンプション国際幼稚園	324	251	77.4%
アサンプション国際小学校	480	401	83.5%
アサンプション国際中学校	240	136	56.6%
アサンプション国際高等学校	360	376	104%
合計	1284	1164	

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2023 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職 務	定員数	現員数
理事	5	5
監事	2	2
評議員	11	11

(6) 教職員の概要

2023 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教 員	本 務	16	38	18	24	96
	兼 務	15	8	12	12	47
職 員	本 務	2	4	3	4	13
	兼 務	0	6	2	3	11

## 第2 事業の概要

### 1 2023年度 事業方針

#### アサンプション国際 2023年度 事業計画と概要

(事業目標)

(1) 経営再建として5カ年をめどに単年度収支の黒字化を図るため、下記の募集人数を確保する。

小学校	80名	(募集定員80名)	⇒	事業実績	2023年4月新入生	67名
中学校	50名	(同 70名)	⇒	事業実績	2023年4月新入生	56名
高等学校	130名	(同 120名)	⇒	事業実績	2023年4月新入生	156名

(2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。

(3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

(1) 学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化する。

(2) 学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにPBL「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。

(3) 学院の「教育の3本柱」は、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育)・英語教育・ICT教育である。所属ごとに学齢に合った教育活動の土台とする。

(4) ICT教育においては、小学校2年生からiPadを一人一台所持する。

(5) 学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ学院として学びの共同体となる。

#### (事業実績) 2023年度在校生の内訳

	男子		女子		計
	人数	割合	人数	割合	
小学校	160	40%	241	60%	401
中学校	72	50.8%	64	49.2%	136
高等学校	173	46%	203	54%	376
計	405	44.4%	508	55.6%	913

### 2 2023年度 法人 事業報告

#### 1. 入学生激減から脱却し、増加に転換

本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。しかし、近年は少子化の影響を多分に受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。この現状を鑑み、2017年より21世紀型教育並びに本学院の特性である英語教育を強化し現在に至っている。

近年の5月1日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
幼稚園	324	314	308	309	296	285	275	259	244	238	251
小学校	480 (360)	222	189	179	208	244	267	303	372	399	401
中学校	240	149	133	133	117	127	141	160	137	132	136
高校	360 (240)	174	172	164	184	233	311	317	313	314	376
総合計	1404	859	802	785	805	889	994	1039	1066	1083	1133
小中高計	1080 (960) (840)	545	494	476	509	604	719	780	822	845	882
小中高収容定員充足率		64.9%	58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	74.9%	81.3%	85.6%	78.2%	81.7%

※2017年から小中高が男女共学

※高校の収容定員は2018年まで240名、2019年から360名

※小学校の収容定員は2021年まで360名、2022年から480名

2. 施設設備工事等

2023年度の施設の老朽化等に伴う改修工事は次のとおりである。

- ・ 小学校滑り台撤去工事
- ・ 中高棟1階鉄扉非常扉修理
- ・ 小学校理科室床工事
- ・ 北館エレベーター改修工事
- ・ 中高棟東館エアコン更新工事

### 3 2023年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

#### 【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す  
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着

#### 【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校50名以上、高等学校130名以上の入学者確保。
2. アサンプション 21 世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

#### 【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保について

##### (1) 中学入試結果

	志願						受験	入学		
	帰国生	A午前	A午後	B日程	C日程	合計	合計	併以外	併設小	合計
2024年度入試	0	28	13	21		62	58	25	27	52
2023年度入試	1	28	15	14		58	56	27	29	56
2022年度入試	0	36	3	14	1	54	52	40	8	48

##### 1) 募集状況

- ・学校内外の説明会参加者は467名（昨年比97%）と横ばい⇒2023年度483名、2022年439名
- ・サッカー部生徒は志願者における割合を下げるため2024年度より7～8名と設定した

##### 2) 受験状況

- ・併設小からの進学者が27名（昨年比2名減） ←共学・イングリッシュコース2期生
- ・志願者はのべ62名（昨年比4名増）
- ・サッカー生徒は最終的に6名（昨年比3名減） ⇒ 2023年度は9名

##### 3) 入学状況

- ・入学者は52名（昨年比4名減）＝目標に対する達成率（104%）  
←併設小からの入学者が2024年度に続き27名だったことが大きい
- ・併設小以外・サッカー以外の入学者が19名（2023年度は18名）と低いラインで横ばい  
→併設小・サッカー部との人数バランスを取りどのグループも少数としない戦略が必要

##### 3) 参考資料：近隣私立中学の状況(第一希望者 / 定員)

追手門 95/80 関倉 145/140 金蘭千里 217/180 梅花 92/80 千里国際 67/80 箕自 51/70  
香里ヌヴェール 69/70 信愛 38/50 大阪国際 96/90 金剛インター：14/40  
→進学校・付属校人気、本校も含めカトリック校・国際校は楽ではない状況

##### 4) 分析

- ・中学入試の状況は厳しい、広報活動だけでは限界が来ている
- ・中学校の教育的な魅力創出（学校行事、海外修学旅行、教育課程の検討）  
＋中堅他校のような奨学金制度などの整備も必要

## (2) 高校入試結果

	帰国		1次		1.5次		合計		併以外	併設中	合計	
	専願	併願	専願	併願	専願	併願	専願	併願				
2024年度入試	2	1	83	91	0	2	85	94	102	30	132	※併願戻り 18/94(19%)
2023年度入試	2	4	78	124			80	128	114	40	154	※併願戻り 34/128(27%)
2022年度入試	4		67	64	4	4	75	68	87	37	124	※併願戻り 13/68(19%)

### 1) 募集状況

- ・学校内外の説明会参加者は1008名（昨年比99.8%）⇔ 2023年度1010名 2022年度766名
- ・併設中からの進学者は30名（内部進学率86%）⇔2023年度40名
- ・総入学者を130名・4クラスにおさえるためアカデミックコースのレベルアップを行った

### 2) 受験状況

- ・昨年度は箕面自由の併願募集停止の特需により併願者が大幅に増加していた。
- ・受験者総数は174名（昨年比86%・一昨年比132%）とレベルアップをしたが大幅減少とならず、かつ専願者は83名（昨年から+5名）と増やすことができた。

### 3) 入学状況

- ・入学者は132名（目標達成率102%）となり、想定した通りの入学者となった
- ・公立高校の倍率減少で併願戻りが一般的に大きく減る中、例年並みの戻り率となった  
→国際系のイメージがある箕面高校や近いレベルの山田高校の人气が背景にある

### 4) 分析

- ・私学助成の拡大による私学人気の追い風によることは否定できない
- ・その一方豊能・吹田市といった近隣地域からの受験者が多くを占めることから、広報活動だけでなく、普段の部活動による交流や校長や学校が変化しないことによる安定感、入試訪問等による信頼関係構築など地道な活動が結果に結びついている
- ・また遠方からの志願者に対しても出身中学校をすぐフォローするなど地道な広報活動も結果として受験につながっている。
- ・学校説明会では、在校生を多く出演させたことが受験生の高評価につながっている。

## 2. 教育力の向上・教育環境の充実

### (1) 教員研修の充実

- ・4月と8月に学院カウンセラーを講師としたさまざまな生徒の理解を目標とした研修を行った。4月は「気になる生徒の背景を考える」、8月は人権教育研究会と一緒に「発達障害などの生徒理解」をテーマとした教員研修を行った。
- ・6月にお互いの授業を教科を超えて見学する「授業見学週間」を実施した。見学することで得た学びをスプレッドシートで共有することで、教員の授業力向上をめざした。
- ・7月に学院主催の「AED研修」に教員を派遣し、急病・けが発生時の応急処置についての対応力を高めた。
- ・教員個人で校外の研修会に参加することを奨励し、2023年度は英語・国語・理科・情報科・放送部指導の研修会・研究会に教員が参加し指導力向上に努めた。

### (2) 学習メンターと連携した教育環境の整備

- ・「トモノカイ」と連携し、放課後の自習室・中学チャレンジタイムに現役大学生の「学習メンター」を派遣する取組みを進路指導部を中心に開始した。
- ・放課後の自習室について、開室時間を広げかつ学習メンターを配置することで、生徒が気軽に進路や勉強について質問できる環境を整備し、意欲ある生徒を応援する取組みを始めた。
- ・中学校チャレンジタイムを導入し、授業を受けるだけでなく自分で課題に取り組む時間を設ける

ことで自学自習習慣の確立を目指した。2024年度よりは基礎学力として重要な数学に限定し学習メンターと共に学力向上にとりくむ「数学チャレンジタイム」に改編する予定である。

- ・各学年のLHRにおいて、学習メンターと連携し、進路や入試・勉強の仕方などを教員とは違う立場で生徒に説明する機会を増やし、目的意識を持たせるように取り組んだ。

### (3) グローバル教育の充実

- ・海外研修・ターム留学・コリブリ（日仏交流）を、2022年1月から再開し、生徒が実際に海外を訪問して学ぶ機会の提供を行った。
- ・海外大学・留学ガイダンスなど生徒や保護者向けに情報を発信するガイダンスを充実させた。

### (4) 進路実績の向上に向けて

- ・2024年度よりの45分授業導入に合わせて、朝のモジュール学習を取り入れ、自己調整学習アプリ「モノグサ」を使った毎朝10分の学習タイムを導入する予定である。
- ・多様化複雑化する大学入試に対応し、総合型選抜、指定校推薦、公募推薦、共通テストなど受験種別ごとのガイダンスをこまめに実施し生徒への情報提供を充実させた。
- ・大学出張授業、学部学科ガイダンスなど大学での学びについて、大学関係者に直接話を聞く機会を設け、生徒に大学での学びのイメージを持たせるようにした。
- ・志望理由書の作成・面接練習をについて、多くの教員が専門性を生かして関わり指導し、総合型選抜入試などで実績を上げることができた。
- ・連携協定校である関西学院大学への進学を意識させ、今年度も10名以上の生徒が進学した。
- ・国公立大学への入学者は0名であったが、上智やICU、関関同立レベルの私立大学の実績を伸ばし多くの合格者を出すことができた。

## 3. 施設の整備

### (1) ICT環境の整備

- ・ICT環境の改善のために事業者とともに適宜改善策を実施してきたが、根本的解決をはかるためフィルタリング環境をクラウド環境に構築し、校内NW・サーバの負荷を改善した。
- ・オンライン配信のための機器や端末機器の購入を行い、環境整備を行った。
- ・生徒端末の故障対応の煩雑さの解消のため一括購入による時期の遅れの解消のため、2024年度新入生より端末は各自購入に切り替えた。
- ・政府の補正予算の補助金「DXハイスクール」に応募し、メディアルームの機器・設備を改修し今の時代に合った新しい機材を用いた教育を行い理系人材の育成を目指すことで、補助金を獲得した。

### (2) 施設・環境の整備

- ・生徒から要望の高い第二体育館更衣室の環境改善について検討し、冷房設備の導入をめざしたが電源が貧弱なため電源確保に多大な費用が掛かることがわかったため、断熱工事に切り替えて環境改善に努めた。
- ・課題としては温暖化による高温対策のため第二体育館の冷房を整備することを検討し、学院と協力して見積もりを依頼した
- ・生徒の増加・自転車通学者の増加から自転車置き場の整備を拡充を検討し見積もりを取った。費用をかけることは困難なため、西門周辺の場所を暫定的な自転車置き場として利用することになった。
- ・西館2階教室について、2023年度はクラス増対応として小学校より移管し、普通教室として整備した。
- ・各教室の冷房・プロジェクター・スクリーン、講堂の放送設備・スクリーンなど老朽化が進むものが多く、段階的に整備することを法人本部と協力して行っていきたい。

## 4 2023年度 アサンプション国際小学校 事業報告

### 【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。  
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着

### 【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の改良と組織化
- (3) 学院的課題…募集 80 名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

### 【具体的な取り組みと評価】

#### (1) 授業力の向上

##### ①研究研修体制

研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進めた。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行った。若手・ベテラン共にたくさんの発言をすることにより、研究テーマについて深く学ぶことができた。より多くの学ぶ機会を設けるために、年間計画を担当者と再度検討中である。

##### ②PBL

全体的な理解が進み、より一層多くの実践を残すことができた。PBL が特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができている。若手の教員も積極的に取り組み、実践報告を発表することができた。

##### ③ICT活用

iPad の本格導入から 4 年が経ち、授業内での ICT 活用場面は大幅に増えた。児童の運用能力も向上しているため、iPad を「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階に入ってきた。今年度の 2 年生より、LTE 仕様の iPad をレンタルで使用するようになり、今まで以上に使用場所に限定されない使い方ができるようになった。

#### (2) 英語力 (イマージョン) 強化

##### ①モジュールタイムの導入

…定期的に朝の時間を確保することで、取り組みを定着させることはできた。電子書籍の活用にも積極的に取り組み、バランスよく英語力を向上させることができた。

##### ②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

…定期的に会議の場を持つことができ、PBL の授業を主体とするという意識統一ができた。また、指導に際しての注意点なども確認できた

##### ③中高のイマージョン部との連携

…具体的な指導・カリキュラムなど、12 年一貫プログラムを構築できた。今後、中高との教員研修の場を持ち更なる理解を深めていく。

#### (3) 学院的課題＝募集大増強 (80 名) ※入学者 55 名

##### ①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…2024 年度入試内部園長推薦は 12 名となった。

…3 月・5 月に併設幼稚園への説明会を行った。参加者に対して、推薦制度とコース決定方法の周知も浸透できた。

##### ②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…3～6 年生保護者に対しての中学校説明会、5 年児童に対しての出張授業を実施した。

#### (4) 宗教教育再生・強化

##### ①「宗教の時間」への教員の参画機会増強

- …礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を設けた。
- …学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

##### ②教員に対する宗教教育実施

- …4月に教員研修を実施。

## 5 2023年度 こども園アサンプション国際幼稚園 事業報告

### 【理念】

- ・キリスト教の精神に基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。
- ・愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。

### 【在籍日数及び入園者報告】

- ・2歳児クラス 12名
- ・3歳児クラス 69名
- ・4歳児クラス 80名
- ・5歳児クラス 89名

計250名（2023年度末実績）

### 【重点課題】

1. 教育充実の取り組み
2. 地域との連携
3. 園児募集に関わる事業
4. 各所属との交流（園児・児童・生徒・教員）

### 【具体的な取り組みと評価】

#### 1. 教育充実の取り組み

##### (1) 聖堂にて、シスターから聖書のお話を聞く

キリスト教保育を実践する中で、各学年で月1回、聖堂でシスターから神さまのお話を聞く機会を持った。神さまに守られながら、喜びと感謝の気持ちを持って過ごした。

##### (2) 本園教員、ネイティブによる英語教育カリキュラムの構築

学年に応じた指導と教育時間の計画を立てて実施した。

(年中、年長組…毎週2回 年少組…2学期より週1回実施)

子どもたちは皆、楽しく参加することができた。2月の生活発表会では年長クラスで英語劇を行った。内部進学希望者も13名となり、うち7名はイングリッシュコース希望へと繋がりました。

##### (3) 異年齢保育

横割り保育では、同じ年齢の友だちの中で人間関係の構築に必要な関わりを経験した。また異年齢保育（縦割り保育）では、自由遊びの中での年少さんへのお世話を通して相手に対する思いやりや労わる気持ち、成長への憧れや期待をもって過ごすことができた。

#### (4) コヤマスポーツスクールによる体操指導の実施

幼児体操専門の指導員を招き、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操を実施した。

### 2. 地域との連携

(1) 地域子育て支援「みんなであそぼう」を年間17回実施。(園庭開放、行事参加等)園庭開放には平均8人が参加。中には来年度の入園を意識して遊びに来られている親御さんもおられた。

(2) 子育て支援事業として、子育て相談員(主幹教諭)を配置した。

### 3. 園児募集に関わる事業

(1) プレスクールの実施(2歳児…ひとクラス12名、4クラス…年間18回)。

40名中33人が入園に繋がった。

(2) ブログを毎日更新し、子どもたちの様子と園内の新しい情報を提供。

(3) 入園説明会を9月に実施。

3回に分けて実施した。参加者は計95名。新年度の新入園児数は3歳児クラス53名であった。

### 4. 各所属との交流(園児・児童・生徒・教員)

小学校の生徒と下記の日時で交流を持つことができた。

- ・11月 1日 ハロウィンパーティーに参加
- ・11月 7日 小学3年生による絵本の読み聞かせ
- ・12月21日 いっしょにあそぼう
- ・2月3日 節分(幼稚園教員が小学校へ鬼で参加)

### 第3 財務の概要

#### 1 財務の経年比較

入学者数 (単位:人)

5/1現在

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高等学 校	126	92	106	124	156
中 学 校	56	52	36	48	56
小 学 校	66	65	84	68	67
こ ども 園	86	85	84	82	83
合 計	334	294	310	322	362

在籍者数 (単位:人)

5/1現在

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高等学 校	311	317	313	314	376
中 学 校	141	160	137	132	136
小 学 校	267	303	372	399	401
こ ども 園	275	259	244	238	251
合 計	994	1039	1066	1083	1164

教職員数 (単位:人)

5/1現在

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
高等学 校	教 員	21	22	21	21	24
	職 員	1	1	2	1	1
中 学 校	教 員	21	23	21	19	18
	職 員	1	1	0	1	1
小 学 校	教 員	25	29	33	39	38
	職 員	1	1	1	1	1
こ ども 園	教 員	16	18	19	18	16
	職 員	2	2	2	1	1
法人	職 員	8	7	8	8	8
合 計	教 員	83	92	94	97	96
	職 員	13	12	13	12	12

資金収支計算書 (単位:百万円)

項 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	521	576	645	630	688
手数料収入	6	5	6	7	6
寄付金収入	7	10	8	2	7
補助金収入	426	453	459	483	526
資産運用収入	0	0	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	16	14	15	56	66
付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
雑収入	11	11	31	12	64
借入金等収入	83	620	240	380	320
前受金収入	50	54	65	78	67
その他の収入	675	523	680	734	931
資金収入調整勘定	△122	△85	△99	△94	△155
収入の部小計(A)	1,671	2,181	2,050	2,288	2,520
前年度繰越支払資金	202	118	87	27	81
収入の部合計	1,873	2,298	2,137	2,315	2,601
人件費支出	729	735	818	812	892
教育研究経費支出	169	185	223	214	201
管理経費支出	134	92	96	126	135
借入金等利息支出	9	6	1	1	1
借入金等返済支出	53	676	350	316	373
施設関係支出	52	2	10	23	7
設備関係支出	14	2	6	11	36
資産運用支出	138	124	122	144	178
その他の支出	491	417	539	611	769
資金支出調整勘定	△34	△21	△54	△24	△107
支出の部小計(B)	1,755	2,217	2,111	2,234	2,485
次年度繰越支払資金	118	82	27	81	116
支出の部合計	1,873	2,298	2,138	2,315	2,601
(A-B)年度収支差額	△84	△36	△61	54	35

事業活動収支計算書（単位：百万円）

項目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	521	576	644	630	688
		手 数 料	6	5	6	7	6
		寄 付 金	7	10	8	2	7
		補 助 金	426	453	459	483	526
		資 産 運 用 収 入	0	0	0	0	0
		付 随 事 業 収 入	16	14	15	56	65
		雑 収 入	8	2	31	12	55
	教 育 活 動 収 入 計	983	1,060	1,163	1,190	1,349	
	事業活動支出の部	人 件 費	729	710	815	819	884
		教 育 研 究 経 費	169	282	316	291	293
		内 減 価 償 却 額	93	97	93	77	92
		管 理 経 費	134	92	97	127	128
		内 減 価 償 却 額	2	2	1	1	3
		徴 収 不 能 額 等	0	0	0	0	0
教 育 活 動 支 出 計		1,126	1,084	1,228	1,237	1,305	
教 育 活 動 収 支 差 額	△143	△24	△64	△46	43		
教育活動外収支	事業の活動収入	受 取 利 息 ・ 配 当 金	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 収 入 計	0	0	0	0	0
	事業の活動支出	借 入 金 等 利 息	9	6	0	1	1
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 支 出 計	9	6	0	1	1
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△9	△6	0	△1	△1		
経 常 収 入		983	1,060	1,163	1,190	1,349	
経 常 支 出		1,135	1,089	1,228	1,237	1,306	
経 常 収 支 差 額		△152	△30	△65	△47	43	
特別収支	事業の活動収入	資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 収 入	0	0	0	3	11
		特 別 収 入 計	0	0	0	3	11
	事業の活動支出	資 産 処 分 差 額	7	0	1	1	0
		そ の 他 の 特 別 支 出	0	0	1	1	9
		特 別 支 出 計	7	0	2	2	10
	特 別 収 支 差 額	△7	0	△2	1	1	
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額		△159	△30	△67	△46	43	

(参考)

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
基本金組入前当年度収支差額（減価償却控除前）	△65	69	27	33	138
事業活動収入計	983	1,060	1,163	1,190	1,360
事業活動支出計	1,143	1,090	1,230	1,238	1,316
人件費比率（寄付金控除後）	74.7%	67.7%	70.5%	68.9%	65.9%
中高収支	△54	△50	△76	△39	10
小学校収支	20	35	52	28	39
こども園収支	15	△3	△34	△22	△3